

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月28日

事業所名 鈴鹿市第1療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点・課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	4	1	・利用児が物を出してしまわないよう、収納棚をカーテンで見えないようにしている。療育用具は落ち着いて活動できる環境を作るため、療育前に出すようにしている。	・各部屋の大きさに応じて利用者数を調整し、ケガや事故防止対策につなげています。
	2	職員の配置数は適切である	11	3	1		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	12	2	1		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	11	2	2		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14		1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	1	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	4	2	・外部評価は行っていない。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	1	1	・月1～2回、研修の場を設けている。 ・年10回以上行っている。	・年間通して、職員研修会を定期的を実施し、職員の資質やスキルを上げることに努めています。また、外部研修について、随時職員全体へ周知して研修の機会を設けています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13		2		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	4	2	・訓練・心理対象者のみ。 ・アセスメントツールがない。	・利用者様の発達段階に応じて、発達検査を実施し、検査結果を支援につなげています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	12		3		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13		2		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	4	2	・集団療育は月1回の利用。	・各クラスや利用者に応じて必要な課題設定を設けて療育活動や各訓練を実施しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	14		1		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14		1		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14		1		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14		1		
関係機関や保護者との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	14		1		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	14		1		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	1	3		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11	1	3		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	12	1	2		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	13		2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	11	2	2	・今はそのようなケースがないが、今後支援の対象を18才までとしていくのであれば、情報提供していく必要がある。 ・現在18才の児童の在籍がないが、あった場合は提供できる。 ・当センター終了時点では小学校に通っているため、障害福祉サービス事業所等へ移行するケースはない。卒業時に限らず、必要に応じて情報提供はしている。	・児童発達支援管理責任者を中心に、相談支援事業所をとらして、適宜支援内容等の引継ぎを実施しています。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点・課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	1	2		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	7	2		
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	10	2	3		
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	14		1		
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	5	1	・準備中。 ・現在は児童発達支援(第2療育センター)のみ行っている。	・今年度12月から第2療育センターにおいてペアレントトレーニングがスタートしました。来年度から、第1療育センターにおいても実施に向けて協議検討中です。
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13		2		
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14		1		
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	6	2	・月1回の利用のため。	・父母会はしていませんが、保護者様向けペアレントトレーニングの実施に向けて、協議・検討中です。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13		2		
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	1	2		
	35 個人情報に十分注意している	14		1		
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	14		1		
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	7	1	・行事がなくなってしまったので、地域交流の場をどう作るのかは課題。	・施設内における行事は実施していないが、地域のイベントにこちらから出向き、各コーナー(ことばや発達の相談や施設PR、手づくり体験、おもちゃ図書館等)を設けて、定期的に地域住民との交流を図っています。	
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	3	1		
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	2	1	・年1回でも避難訓練を取り入れられると良い。	・避難訓練は、年2回実施しています。災害時に、安全に避難できるよう適宜訓練を実施しています。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14		1		
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	4	2		
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	1	2	・保護者の聞き取りにより、対応している。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13		2		